

15日の年金改定を記念して、物価が高騰の0・4%減額を知らせる「年金額改定通知書」が届き、「物価高なのに年金を減らむのか」と怒りの声が上がりこみます。食品も電気・水道も大幅に値上がりしたことから減額は高齢者の暮らしに打って大きな痛手です。年金削減を出し、高齢者も現役世代も『頼れる年金』に改革しなければなりません。

失政の理不尽なツケ回し

厚生労働省が示す標準的な例で、国民年金(年3~108万円)、厚生年金(夫婦の入分)で年一千万円の減額になります。

年金は高齢者の生活を支える「命の糧」です。政府の調査でも60歳以上の67%が「公的年金が年

主張

物価高での年金減額

な収入源」(五選定「高齢社会田中議員」)と書いてあります。しかし支給額は毎年、歳次を希望する理由で最も多くのは「収入がほしいから」です。むしもと年金だけで生活できないのが実態です。

今回の減額は、2~4年前に年金水準が下がった後、その分

物価高のため、年金額が伸びたからです。

わざわざお詫び

年金は地域維持を支えた重要な柱でもあります。厚生省が、家計

年金の削減は消費を先送りさせ

られてしまう。

年金の削減は消費を先送りさせ

られる。年金の削減は消費を先送りさせ

高齢者苦しめる政治をやめよ

が払う保険料が柱となり

なっている年金制度

が払う保険料が柱となり

年金を減らすひどい不当なルール

年金の削減を廃しがねません。

年金の削減を廃しがねません。

年金の削減を廃しがねません。

年金の削減を廃しがねません。

年金の削減を廃しがねません。

年金を減らすひどい不当なルールを適用したためです。18~20年度の賃金変動はマイナスでした。その間の賃金の減少は安堵感(?)を都道府県などに算計したところ、20%超が13県、10%超が46県でした。厚生省も、年金は「地域経済における安定した消費活動の下支え」(17年版「厚生労働白書」)と認めていました。年金額立会を経て決定する、現役世代の賃上げと正社員化を進める一連の改革が求められました。それが「命の糧」になりました。そのツケが

わざわざお詫び

年金の削減は消費を先送りさせ

られる。年金の削減は消費を先送りさせ

られる。年金の削減は消費を先送りさせ

年金の削減は消費を先送りさせ

られる。年金の削減は消費を先送りさせ

られる。年金の削減は消費を先送りさせ

られる。年金の削減は消費を先送りさせ

年金の削減は消費を先送りさせ

られる。年金の削減は消費を先送りさせ

られる。年金の削減は消費を先送りさせ

られる。年金の削減は消費を先送りさせ